

公同礼拝

2024年5月12日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 本多友子

前 奏

招 詞 詩 編 51編12～14節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

イザヤ書 64章5～11節 (旧1166)

マタイによる福音書22章1～14節(新42)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 7

説 教 「招かれ、選ばれる」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 270

献 金

頌 栄 542

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

5月の祈り

復活の主の昇天とペンテコステの聖霊降臨を覚え、今生きるキリストの体としての教会の歩みを確かなものとするができるように。

聖霊に導かれて礼拝が充実されるように。

祈禱会を重んじ、聖書の言葉に導かれる信仰生活となるように。

高齢や体調などにより礼拝に集うことがかなわないでいる兄弟姉妹たちを覚えて。

震災の地の教会と人々を覚えて。戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

今日の祈り

ペンテコステに向けて、聖霊の信仰と信頼を深めることができるように。教会を立て、教会の頭である主をあがめる礼拝に心と思いを尽くすことができるように。

教会のため、求道者のため、礼拝に集まることの困難な人々のため、未陪餐会員のために。

「招かれ、選ばれる」 高橋和人

マタイによる福音書22章1～14節

主イエスのたとは一枚の絵を描くように語られる。鮮やかな場面に驚くべきものが現れる。天の国がある王子の婚宴にたとえられる。王にとっても人々にも最大の祝い事になる。婚宴は集うものたちの結びつきを深める。しかし、招いていたものは来ず、使いの家来たちを無視し、乱暴し、殺してしまった。王は怒り、その町を焼き払った。

王は家来に「招いていた人はふさわしくなかった」「見かけたものは誰でも婚宴に連れて来い」と命じ、家来たちは善人も悪人も集め、婚宴は客でいっぱいになった。

こ子でも、天の国の招きについたられている。

主イエスの登場は婚姻にたとえられる祝福。しかしもともと招かれていたイスラエルは預言者を迫害し、主イエスを拒否し、これを殺してしまう。主の来臨と十字架が語られる。

そこで、王である神は誰でも招かれる。主の十字架のもたらしたことだ。善人も悪人も区別なしに呼ばれた。主イエスの招きは罪人と呼ばれるものたちを招いた。

しかし、礼服を着ていないものが一人いて、王がなぜかと問うても黙っていた。王は放り出させ「招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない」といった。

礼拝は神の国の祝宴に通じる。どんなものでも招き入れられる。ここで「友よどうして礼服を着ないのか」というのは直接礼拝の服装とは言えないだろう。礼服は結婚の服の意。祝宴に招かれたものはただの来客ではなく、その結婚につながる。

むしろ内面的な礼拝姿勢が問われる。礼服はそれにふさわしい姿勢になる。それは自分が目立つことではなく、主役が立てられる。礼拝の主役は主イエスであり、主御自身が讃えられる。

招かれたことを喜び、むしろ自分にはふさわしい資格がなく、働なしに呼び集められたことをわきまえていることこそふさわしい。選びは「自分が選ばれるにふさわしいと思った時、それはふさわしくなく、自分がふさわしくないことが分かっているものがふさわしい。」と説かれる。

それは、主に赦されて結ばれるという恵みの大きさを教える。それにふさわしい姿勢が必要だ。そしてこの恵みを失うことは外の暗闇に放り出されることになる。